

霞北水産だより

第46号

平成21年3月31日発行

発行者

霞ヶ浦北浦水産振興協議会
土浦市真鍋5丁目17番地26号
TEL 029-822-7285(代)
(茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所内)

霞ヶ浦魚祭り

霞ヶ浦魚祭り
in美浦から



目 次

この一年の話題	P 2
<水産事務所より>	
霞ヶ浦北浦における資源管理型漁業の取組みについて	P 6
霞ヶ浦北浦におけるコイ養殖再開について	P 7
霞ヶ浦地区の漁協合併について	P 8
<試験研究情報>	
コイヘルペスウイルス病の試験状況	P 9
北浦で実施したワカサギ資源回復計画とその後の様子	P 10
水産製品品評会	P 12
会員より「知事表敬訪問」「霞ヶ浦魚祭り in 美浦」	P 14
お知らせ・編集後記	P 15

霞ヶ浦北浦の水産業

この一年の話題

平成20年4月～平成21年3月の話題がら

振興協議会第51回総会開催
20 / 6 / 25

当会の第51回総会を開催しました。昭和33年に当協議会が発足してから50年が経過し、51年目に入る節目の年となりました。

昨年度の事業で完成した振興協議会のホームページが紹介され、今年度の事業として、霞ヶ浦北浦産水産物の地元への消費拡大を目的とした栄養士向けの試食・求評会の開催が決議されました。

20 / 65

霞ヶ浦・北浦ではアメリ
カナマズとブルーギルの外
来魚の駆除を6月から実施
し、霞ヶ浦では126t北

浦で44tを回収しました

県では今後も、外来魚による食害や漁業被害をなくすことを目指して引き続き回収を続けていきます。

燃油高騰にかかる漁民
集会・全国一斉休漁

20
/ 7
/ 13,
15

漁業用燃油価格の高騰による厳しい経営状況を訴えるため、平成20年7月13日、ひたちなか市の那珂湊漁港で「漁業経営危機突破！茨城県漁民集会」が行われま

連燃油価格高騰緊急対策本部主催)。霞ヶ浦北浦地区の漁業者を含む県内漁業者710名が集まり、この日に、県内一斉休漁が実施されました。

続く7月15日には「漁業

経営危機突破全国漁民大会」
が日比谷で行われました。

また、この日の全国一斉休漁に合わせ、本県でも約100隻が休漁しました。

ワカサギ解禁 20/7/21

7月21日、霞ヶ浦北浦においてトロールによるワカサギ漁が解禁されました。

昨年よりは少ないものの、
解禁日から8日間の1隻あ
たりの平均で129.3kg
／隻と、過去10年間で3番

北浦では、解禁日当初から少なく、解禁日から8日間の1隻あたりの平均で75・2kg／隻と過去10年間で2番目に少ない漁獲となりま

今年は、霞ヶ浦で多く、北浦で少ないという状況で、両湖の漁獲量に差がありますが、全体では過去10年間で中ほどの漁獲となりました。

が開かれました。県霞ヶ浦北浦水産事務所と霞ヶ浦漁業協同組合連合会との共催で行われ、一般公募によつて集まつた美浦村や稻敷市、阿見町からの地元小学生と保護者の計58名が参加しま

湖の漁業体験教室が
開催されました

地域産業である漁業や水産加工業の理解促進と魚食普及を図るため、平成20年7月29日には美浦村木原において「湖の漁業体験教室」

「つくだ煮屋さんの加工場見学」「魚の観察とタツチコーナー」「漁具の展示と漁師さんの話し」「魚と商業の講義」「湖の魚料理の実演と試食」など盛りだくさんのお内容でした。



参加した小学生には当教室での体験を感想文として書いてもらいましたが、「漁船に乗ることも、沖で魚（ボラ）が飛び跳ねるのを見るのも初めてだつた。」「つくだ煮の加工には色々なコツがあることが分かつた。」霞ヶ浦には色々な種



解禁後に合わせて霞ヶ浦北浦産わかさぎをPRするため、霞ヶ浦漁連、きたうら広域漁協、霞北加工協の代表者による知事表敬訪問が行われました。PR品目として、獲れたてのワカサギ、シラウオや、煮干詰合せ、佃煮詰合せを持参して、知事を囲んでの試食と意見交換をしました。
↓14ページに関連記事

20/8/1 知事表敬訪問

類の魚がたくさんいて驚いた。」など、目からウロコの体験だったようです。なお、この感想文は、10月4日の「霞ヶ浦魚祭りin美浦」において展示され、優秀な作品3点に霞ヶ浦漁連会長賞が授与されました。

20/8

霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会委員の改選

表委員1名の合計10名から構成されていますが、平成20年は全国一斉の海区漁業調整委員会委員の改選の年にあたり、霞ヶ浦北浦海区においても改選され、学識経験委員2名、公益代表委員1名の計3名が新任委員となりました。

第十九期霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会委員公選委員◎木川宗次公選委員○鈴木幸雄公選委員竹石正明公選委員田崎興

員の任期は4年で、霞ヶ浦北浦海区では、平成20年8月15日から4年間となります。

会長に木川宗次委員、会長代理に鈴木幸雄委員がそれぞれ選出され、第十九期霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会がスタートしました。委員の任期は4年で、霞ヶ浦北浦海区では、平成20年8月15日から4年間となります。

20/8/1 ウナギ放流

8月から10月にかけて、霞ヶ浦北浦の各地先でウナギの放流事業が行われました。今年は霞ヶ浦で2,504kg、北浦で266.8kgの稚魚が放流されました。放流された稚魚は2~3年程で出荷サイズになり、

※◎会長、○会長代理

学識経験委員	木川 宗次
学識経験委員	○鈴木 幸雄
公益代表委員	竹石 正明
公益代表委員	田崎 興
公選委員	◎木川 宗次
公選委員	○鈴木 幸雄
公選委員	竹石 正明
公選委員	田崎 興
公選委員	木川 宗次
公選委員	○鈴木 幸雄
公選委員	竹石 正明
公選委員	田崎 興

学識経験委員及び公益代表委員は知事の選任により委員となります。公選委員においては、公職選挙法に準じて、漁業者の代表から選挙によって選ばれます。本期は7名の立候補があり選挙が行われました。

霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会は、公選委員6名、

学識経験委員3名、公益代

表委員は知事の選任により委員となります。公選委員においては、公職選挙法に準じて、漁業者の代表から選挙によって選ばれます。本期は7名の立候補があり選挙が行われました。

主に漁閑期の3月から6月にかけてはえ縄やたかつぽ等で漁獲されます。漁獲されたウナギの一部は東京市場に出荷され、相対で都内の料亭等に2,500円/

kg程度で取り引きされています。このため、ウナギ放

流は漁業者に好評であり、今後の期待も高まっています。

変な好評を頂きました。霞ヶ浦で魚祭りが開催されるのは初めてのことでしたが、たくさんの人に霞ヶ浦の水産業をPRすることができました。

↓14ページに関連記事

20/11/18 合同会議開催

市町村担当者と水産業協同組合長の合同会議を行方市の北浦湖畔荘で開催しました。水産事務所からは、網いけす対策事業、遊漁船業、霞ヶ浦地区における漁業協同組合連合会の主催による「霞ヶ浦魚祭りin美浦」が美浦村中央公民館で盛大に開催されました。

この催しは霞ヶ浦の魚の消費拡大と霞ヶ浦の環境保全をテーマに企画された祭りで、当日は約5,000人もの来場者があり大盛況でした。祭りでは「湖の魚試食会」「魚のふれあい体験」「霞ヶ浦のお魚絵画コンクール」と湖の漁業体験講座感想文の展示・表彰」「漁具展示」など、様々なイベントが行われ、来場者からも大



20/11/1~9
国民文化祭で七色の帆引き船が操業されました



平成20年11月に行われた国民文化祭で七色の帆引き船が霞ヶ浦を彩りました。11月1日は麻生、2日はかすみがうら市、3日は玉造、8日と9日は土浦を発着所として、各地先の沖合で1日3回ずつ操業されました。生憎の曇り空で霞んでいる日が多くたですが、霞ヶ浦らしくて良かったかも知れません。

11月3日の玉造沖での操業時は、行方市觀光物産館で開催された「味わい応援団・行方市の特産品販売」が開かれました。この日、帆引き船の運行を仕切つていた玉造漁協の齊藤組合長によると、1回あたり300人以上、合計約1,000人の人が伴走船に乗つて湖上で帆引き船を見たとのことです。

また、霞ヶ浦北浦水産加工組合の加工業者から、地元特産品である「佃煮・煮干し、コイ加工品」などが販売されました。

今年の県民まつりも、昨年と同じくあいにくの肌寒い中での開催でしたが、霞ヶ浦北浦の味をPRしました。

平成20年11月に行われた国民文化祭で七色の帆引き船が霞ヶ浦を彩りました。11月1日は麻生、2日はかすみがうら市、3日は玉造、8日と9日は土浦を発着所として、各地先の沖合で1日3回ずつ操業されました。生憎の曇り空で霞んでいる日が多くたですが、霞ヶ浦らしくて良かったかも知れません。

11月3日の玉造沖での操業時は、行方市觀光物産館で開催された「味わい応援団・行方市の特産品販売」が開かれました。この日、帆引き船の運行を仕切つていた玉造漁協の齊藤組合長によると、1回あたり300人以上、合計約1,000人の人が伴走船に乗つて湖上で帆引き船を見たとのことです。

20/11/8、9
大好きいばらき
県民まつり

20/11/11
茨城の養殖業者も受賞!
潮来で全国食用鯉品評会

平成20年11月8、9日に土浦市霞ヶ浦総合公園で開催された生活文化フェスティバルの中で「大好きいばらき県民まつり」が開催され、「霞ヶ浦北浦のうまいもん」が販売されました。かすみがうら市漁協養殖部がアメリカナマズから揚げとコイ竜田揚げ、鯉こくの実演販売を、玉造漁協養殖部がコイ甘煮の実演販売を行いました。

また、霞ヶ浦北浦水産加工組合の加工業者から、地元特産品である「佃煮・煮干し、コイ加工品」などが販売されました。

今年の県民まつりも、昨年と同じくあいにくの肌寒い中での開催でしたが、霞ヶ浦北浦の味をPRしました。

今年の県民まつりも、昨年と同じくあいにくの肌寒い中での開催でしたが、霞ヶ浦北浦の味をPRしました。

また、霞ヶ浦北浦水産加工組合の加工業者から、地元特産品である「佃煮・煮干し、コイ加工品」などが販売されました。

今年の県民まつりも、昨年と同じくあいにくの肌寒い中での開催でしたが、霞ヶ浦北浦の味をPRしました。

平成20年の漁模様

【霞ヶ浦】

シラウオが豊漁、ワカサギとエビが中漁、ゴロが不漁でした。

トロール解禁前の横曳きではイサザアミ・エビ・ゴロともに少なかったですが、トロール解禁以降は7月21日から9月中旬にワカサギとシラウオ、9月中旬から11月中旬にザザエビ、11月中旬以降にシラウオが獲れ、獲りたい時期に獲りたいものがおよそ獲れました。

【北浦】

主な漁獲対象であるワカサギ・シラウオ・エビ・ゴロの4魚種ともに全域で不漁でした。

ほとんどの漁業者が7月21日から12月9日のトロールのみの操業でしたが、漁に出ても獲るものがないという厳しい状況となり、休漁する漁業者も多くいました。

①甘煮の部

(茨城県知事賞：竹石正明氏、潮来市長賞：海老澤武美氏、全国養鯉振興協議会会長賞：小森喜幸氏、日本養魚飼料協会理事長賞：理崎嘉美氏)

このうち、小森喜幸氏は

早速、道の駅等直販所や力スミ、セイミヤ等のスーパーに出している甘煮に「全国養鯉振興協議会会長賞受賞」と目立つシールを貼り、出荷しました。シール効果もあり、売れ行きは上々のようです。

②創作料理の部

(水産庁長官賞：飯田節子氏、全国養鯉振興協議会会長賞：野原恵美子氏)



養殖者会議による コイの消費拡大に向 けた取り組みの紹介

平成18年6月に活動を再開させた「霞ヶ浦北浦網いかけす養殖者会議」では、養殖試験終了コイを用い、平成20年度に合計10回のコイの消費拡大イベントを行いました。

主なイベントは、各漁協の養殖部などが主体となり、養殖者会議が支援する形で行われました。

玉造地区では、玉造漁協養殖部青年部が4月にオーブン1周年を迎えた行方市観光物産館こいの前で、4月の「1周年イベント」、5月の「GWイベント」、11月の国民文化祭の一環として「味わい応援団・行方市の特産品販売」、及び年明けの「初売り」で甘煮や鯉こくの実演販売等を実施しました。また、5月5日のこどもの日には、霞ヶ浦ふれあいランドから依頼を受け、水の科学館入館者先着300名へ甘煮をプレゼン

ントしました。

かすみがうら市地区では、

かすみがうら市漁協養殖部

が、8月の「あゆみ祭り」

や11月の「かすみがうら祭り」で甘煮や竜田揚げの実演販売等を行いました。

土浦地区では、11月に霞ヶ浦総合公園で行われた「大好きいばらき県民まつり」で、かすみがうら市漁協養殖部と玉造漁協養殖部青年部が竜田揚げ、鯉こく及び甘煮の実演を行いました。

稲敷地区では、10月の「霞ヶ浦魚祭り in 美浦」において、かすみがうら市漁協養殖部が抽選会の景品（甘煮真空パック）の提供、鯉こくの無料サービスを行いました。

今年度も、茨城県水産製品品評会が開催され、霞ヶ浦北浦部門では、美浦村の橋本金兵衛商店の「じらうお佃煮」が農林水産大臣賞に選ばれました。

今年度3年目となるテーマ賞は、昨年と同じく「土产品」をテーマとして、霞北部門では有限会社田中屋川魚店の「佃煮詰合せ」が受賞しました。

↓詳しくは12ページ

20 / 12
海面利用協議会委員の改選

（甘煮真空パック）の提供、鯉こくの無料サービスを行い、玉造漁協養殖部青年部が甘煮の実演・無料サービスを行いました。

潮来地区では、霞ヶ浦北浦小割式養殖漁協が、2月に道の駅いたこで甘煮と鯉こくの無料サービスをする「鯉の消費拡大宣伝事業」を行いました。

いずれのイベントも好評で、地元のコイ料理と養殖

再開への熱意をPRすることができました。

して設置されています。
この協議会には、茨城海

会部会と霞ヶ浦北浦海区部会が置かれ、各部会とも知事から委嘱された漁業関係

2名、遊漁関係2名、海洋性レクリエーション関係1

名、学識経験関係2名の計

7名の委員で構成されています。霞ヶ浦北浦海区部会においては、遊漁関係1名

学識経験関係1名が新任委員となりました。

平成20年12月にすいさん会館で委嘱状交付の後、第

八期初会議が開催され、会長に石川委員（茨城海区部会長）、副会長に県委員

受賞しました。

学識経験関係1名が新任委員となりました。

平成20年12月にすいさん会館で委嘱状交付の後、第

八期初会議が開催され、会長に石川委員（茨城海区部会長）、副会長に県委員

受賞しました。

昨年は、北浦で親魚の成熟が遅く、人工採卵を一旦中断するということがありましたが、今年は両湖とも中断することもなく、各漁協で予定通り採卵することになりました。

昨年は、北浦で親魚の成熟が遅く、人工採卵を一旦

中断するということがありましたが、今年は両湖とも中断することもなく、各漁協で予定通り採卵することになりました。

21 / 2 / 3
ワカサギ人工孵化

（霞ヶ浦海区部会長）が選出されました。

霞ヶ浦北浦海区部会は、平成20年度に一回開催され、霞ヶ浦北浦における漁業と遊漁等の現状についてなど協議を行いました。

して設置されています。

この協議会には、茨城海

会部会と霞ヶ浦北浦海区部会が置かれ、各部会とも知事から委嘱された漁業関係

2名、遊漁関係2名、海洋性レクリエーション関係1

名、学識経験関係2名の計

7名の委員で構成されています。霞ヶ浦北浦海区部会においては、遊漁関係1名

学識経験関係1名が新任委員となりました。

平成20年12月にすいさん会館で委嘱状交付の後、第

八期初会議が開催され、会長に石川委員（茨城海区部会長）、副会長に県委員

受賞しました。

学識経験関係1名が新任委員となりました。

平成20年12月にすいさん会館で委嘱状交付の後、第

八期初会議が開催され、会長に石川委員（茨城海区部会長）、副会長に県委員

受賞しました。

昨年は、北浦で親魚の成熟が遅く、人工採卵を一旦

中断するということがありましたが、今年は両湖とも

中断することもなく、各漁協で予定通り採卵すること

になりました。

昨年は、北浦で親魚の成熟が遅く、人工採卵を一旦

中断するということがありましたが、今年は両湖とも

霞ヶ浦北浦における資源管理型漁業の取組みについて

霞ヶ浦北浦水産事務所 漁業調整課

現在、霞ヶ浦北浦においては「ワカサギ資源回復計画(H18.7制定)」に基づき、漁業者が中心となつた「漁業者自身による漁業管理」を実践すべく、様々な資源管理対策を実施しています。

(1) いさぎ・ごろひき網漁業における幼稚魚混獲防止のための操業自粛(H9~)

ワカサギ幼稚魚などの混獲防止を図るため、いさぎ・ごろひき網漁業の操業自粛が行われました。

①4/27~5/6までの10日間を自主休漁

②7/1~20までの20日間の操業時間短縮【霞:~午前11時／北:~正午】

(※許可上は日没まで)

(2) いさぎ・ごろひき網漁業における綱巻機馬力制限の撤廃と自主ルールの制定

いさぎ・ごろひき網漁業では、ワカサギ幼魚の混獲防止を図るため「綱巻機を駆動する機関の最大出力は6馬力を超えてはならない」とする制限条件を付してきましたが、近年の漁場環境の変化等から操業に支障を来たしているとの要望を受け、この制限を撤廃しました。一方、これに代わる新たな馬力数制限等については法令による規制ではなく、漁業者間の合意に基づく自主ルールとして運用していくこととなり、新たに複数の項目も盛り込まれた漁業管理協定が制定(H21.2)されました。

【いさぎ・ごろひき網漁業 漁業管理協定の主な内容（各地区ともに内容共通）】

①綱巻機を駆動する機関の最大出力は12馬力を超えないものとする。

②出し綱の長さは、1,000メートルを超えないものとする。

③ワカサギ資源回復計画に基づく休漁及び操業時間の短縮を行うものとする。

④アンカーの位置を示すボンテンには視認性の高い塗色を行うなど、事故の未然防止等に努める。

⑤以上の内容等に反する操業を繰り返す者には、漁業許可申請に際して組合長の副申を行わない。

(3) 北浦地区におけるトロール操業時間の短縮(→10ページに関連記事)

北浦地区では、8月のトロール漁獲量が平均5.2kgと、ワカサギ資源回復計画に定められた警戒値(10kg/日・隻)を下回ったことから、8月下旬に関係漁協(きたうら広域漁協及び潮来漁協)による、親魚量を確保するための自主的な措置等に関する検討会(45名出席)が開催され、議論を重ねた結果、トロール漁業の操業時間を9/11以降に1時間短縮する(3h→2h)ことが決定しました。大変厳しい漁模様が続く中での重い決断でしたが、こうした取り組みを行った結果、漁期終盤の11月頃になってワカサギの漁獲量が改善する傾向(10kg以上/日・隻)があらわれたことから一定の効果があったものと考えられます。

(4) 今後の取り組みについて

資源管理型漁業をさらに進展させていくためには、「資源の回復・増大」とともに「資源の有効活用(=品質向上・販売対策)」を視野に入れた取り組みが不可欠です。今後は、品質の良い霞北水産物をニーズに合わせて供給できるような体制づくりに向け、関係者との議論を重ねながら霞ヶ浦北浦の漁業の活性化を検討していきます。

霞ヶ浦北浦におけるコイ養殖再開について

霞ヶ浦北浦水産事務所 振興課

1 これまでの経緯

霞ヶ浦北浦のコイ養殖は、全国一の生産量を誇っていましたが、平成15年10月のコイヘルペスウイルス病（K H V病）の発生により持続的養殖生産確保法に基づく移動禁止命令、処分命令が出され、平成16年3月までに当時飼育されていたコイの全量が処分されました。

県は、①新たな稚魚を湖内で飼育しても斃死するリスクが高いこと、②まん延させない出荷流通方法の検討が必要であることなどの理由から、養殖業者に対し、これらの課題が解決するまでの間、コイ養殖の自粛を要請してきました。

今般、①、②の技術的課題が解決されたことから、以下の条件付きでのコイ養殖自粛解除を行うこととなりました。

2 霞ヶ浦北浦におけるコイ養殖時の条件

① 網いけす養殖を行う種苗について

K H V発症が起きにくい種苗を用いることとし、網いけすへの収容尾数を管理することとする。

② 斃死魚の取扱いについて

まん延防止の観点から埋設、焼却による適正な処理を行うこと。

また、大量斃死があった場合には速やかに県へ連絡を行うこと。

③ 出荷形態と出荷範囲について

活 魚：県内の霞ヶ浦北浦流域

切り身または鰓除去の鮮魚：制限なし

加熱加工品：制限なし

④ 上記③の遵守を担保する措置について

持続的養殖生産確保法に基づく移動禁止命令をかけることとする。また、併せて出荷記録を義務づけるとともに、県の要請により出荷記録の提出に応じることとする。

3 今後の取り組み

K H Vに強いコイの作出技術を養殖業者の方々に習得していただくとともに、コイ養殖が長い休止期間を経て再開されることから、需要の喚起を図るためのP R活動や加工品の開発支援を行ってまいります。

霞ヶ浦地区の漁協合併について

霞ヶ浦北浦水産事務所 指導課

漁協合併については、霞ヶ浦漁連及び漁連に加入している各組合を中心に「霞ヶ浦地区漁協合併推進協議会」を組織して協議を重ねてあり、霞ヶ浦のほとんどの組合が合併に参加する見込みです。

今回は、現状及び今後の見通しなどについてご説明します。

(1) 漁協合併のスケジュール

新組合の設立予定日が今年12月1日となりました。したがって、設立予定日までに各組合で財産目録の作成や合併仮契約書の承認などを行う必要があります。なお、合併に関する詳細は合併仮契約書或いは事業計画書などに盛り込まれることになります。

(2) これまでに決定した事項について

定款の基本となる事項として、新組合の名称や地区及び役員体制などが固まっています。また、出資金は一口1万円として全額を新組合に持込み、賦課金については合併参加組合の平均を目安として統一することで合意が得られています。

(3) 今後、決めるべき事項について

新組合の事業計画や職員の待遇、及び支部の運営体制などを決めていく必要があります。なお、新組合の定款や役員の選任などは合併仮契約書の調印後に設置される設立委員会で協議のうえ決定することになります。

(4) 組合員資格審査との関係について

組合員の資格審査が定款の絶対的記載事項とされたことにより、各組合で定款変更の手続を行いました。今後、資格審査は毎年1月に必ず行うことになります。しかしながら、霞ヶ浦地区では今年12月に新組合の設立を予定しているため資格審査は原則として新組合で行います。

(5) 合併漁協の将来像について

合併推進協議会での話し合いの中で、これまでに各組合が行ってきた事業については基本的に実施するとの方針が示されています。したがって、組合員の皆さんを受けたサービスについては、引き続き利用することができます。また、かすみがうら市漁協で行っている購買、販売及び組合員の共済事業についても、将来的には霞ヶ浦地区のすべての組合員が利用できるよう、検討していく必要があると考えています。

平成21年

霞ヶ浦地区の漁協合併スケジュール（案）

期日	5月31日	9月上旬	9月末まで	12月1日
項目	合併基準日	合併仮契約調印	合併総会	新組合設立
内容	・各組合で財務諸表の整理	・合併仮契約書、合併及び事業経営計画書	・合併仮契約の内容の承認（各組合）	・設立後2週間以内に登記

コイヘルペスウイルス病の試験状況

内水面水産試験場 増殖部

1 はじめに

平成15年10月に霞ヶ浦北浦のコイに発生したコイヘルペスウイルス病は、それまで全国一の生産量を誇っていたコイの網いけす養殖業に甚大な被害をもたらし、その後操業の自粛を余儀なくされてきました。

内水面水産試験場では、養殖業者をはじめ関係漁協の皆さんの協力を得て、霞ヶ浦北浦におけるコイヘルペスウイルスの動向把握やコイヘルペスウイルスに耐性をもつコイの開発そしてコイヘルペスウイルスをまん延させない新しい流通方法の開発を行ってきました。ここで、内水試で行ってきたこれらの概容について紹介します。

2 霞ヶ浦北浦におけるコイヘルペスウイルス病のモニタリング

天然水域におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況を把握するため、平成16年以降、霞ヶ浦北浦で漁獲されたコイについて、コイヘルペスウイルス遺伝子の検出のためのPCR検査を行っています。

その結果、平成16年から平成20年まで、霞ヶ浦北浦ではコイの大量へい死は確認されていませんでしたが、PCR検査では毎年4%～12%のコイからPCRの陽性反応（コイヘルペスウイルスに感染している状態であること）がでした。

また、平成17年と平成20年に、コイの血中の抗コイヘルペスウイルス抗体量を関係機関の協力を得て測定したところ、68%～70%のコイがコイヘルペスウイルスに感染していたことを示す結果がでした。

あわせて、平成20年に内水試の網いけすでコイヘルペスウイルスに感染していないコイを飼育したところ、3ヶ月ですべてへい死し、へい死魚のPCR検査は陽性でした。

のことから、霞ヶ浦北浦では依然コイヘルペスウイルスが存在していること、天然コイの多くはコイヘルペスウイルスに耐性をもって生息していること、今なおウイルスフリーのコイは霞ヶ浦北浦ではコイヘルペスウイルス病でへい死することがわかりました。

3 升温処理によるコイのコイヘルペスウイルス耐性の獲得試験

コイヘルペスウイルスに感染したコイを一定期間高水温で飼育することにより、コイヘルペスウイルスへの耐性を獲得すると考えられていることから、平成18年11月からKHV耐性コイ作出技術開発の一つとして升温処理試験を行っています。

これらのコイを霞ヶ浦の網いけすで実際に飼育したところ、平成19年5月から12月までの生残率は升温処理コイで約9割、未処理のコイで約2割でした。この升温処理コイの一部を内水試の網いけすで引き続き飼育したところ、平成20年7月から12月までの生残率は9割以上と、ほとんどへい死は見られませんでした。

のことから、升温処理を行ったコイはコイヘルペスウイルスに対する耐性を獲得していることがわかりました。

4 コイの新たな流通・加工処理方法の開発

コイヘルペスウイルスに感染し生残したコイ（升温処理魚も含まれます）は、体内にウイルスを保有している可能性があるため、生きたままのコイを霞ヶ浦北浦流域の外に出荷すること

（10ページへつづく）

(9ページのつづき)

はできます、まん延を防止する観点から唯一、加熱処理をすることとされてきました。しかし、鮮魚での出荷の要望も強いことから、これらのコイの鮮魚（切り身、非加熱）が感染源となるかどうか試験を行いました。

その結果、鮮魚（切り身）の各部位（鱗、エラ、魚肉、内臓、血液等）からウイルスフリーのコイへコイヘルペスウイルスの感染は見られず、唯一コイヘルペスウイルス病を発症しているコイのエラ部位からの感染があつたのみでした。

のことから、発症魚を加工原魚とすることはありえませんが、少なくともどのコイも、エラを取り除いた状態であれば他のコイへコイヘルペスウイルスが感染する可能性は極めて低くなることが判明しました。

なお、この試験は国のコイヘルペスウイルス病に関する技術検討会でも、魚類防疫上の新しい処理方法として安全性が認められました。

5 今後の試験計画

内水試では、昇温処理による耐性コイの作出技術の改良を続けるとともに、県内外の試験研究機関とも連携してコイヘルペスウイルス病対策研究を実施します。

特に、コイヘルペスウイルス耐性を持つカギとなる抗K H V抗体の產生機構の解明に取り組んでまいります。

北浦で実施したワカサギ資源回復計画とその後の様子

内水面水産試験場 湖沼部

1 ワカサギの資源回復計画

霞ヶ浦北浦では、漁業のシンボルといえるワカサギの資源を回復させるために、平成18年度からワカサギ資源回復計画を策定し資源管理型漁業を推進しています。ワカサギ資源回復計画では、8月におけるワカサギの獲れ具合が一定水準を下回った場合に、翌年の資源発生に必要な親魚量を確保するために漁獲を控える取り組みを行うことにしています。一定水準とは1日1隻あたりの漁獲量（C P U Eといいます）のことです、霞ヶ浦では5Kg、北浦では10Kgが目安です。この資源回復計画に関して内水試は、漁獲量の集計からC P U Eを算出して資源評価を行い、漁業者の皆さんに情報提供する役目を担っています。

2 初めての資源回復計画の実施

平成18年度に計画を策定してから、実際に漁獲を控える取り組みが行われる事態になることはありませんでした。しかし平成20年の北浦では7月上旬に行った漁期前調査の時点から資源が危ぶまれる状況にあり、資源回復計画を実施する可能性が高いと思われました。資源を守るために、資源回復計画ができるだけ早い段階から行う必要があり、そのためには内水試が少しでも早く情報を提供する必要があります。そこで内水試では資源水準の評価手法の改善を試み、8月上旬のC P U Eから資源評価を行えるようにして、8月中旬には情報を提供できる体制を整えました。

実際の解禁後の様子ですが、8月上旬のC P U Eは一定水準を下回る6.0Kgという状況で（図1）、初めて資源回復計画を実施する必要に迫られました。この内水試からの情報を受けて、きたう

(11ページ左上へつづく)

(10ページのつづき)

ら広域漁協と潮来漁協は資源利用漁業者検討会を開催し、9月11日からトロール漁について1時間の操業時間短縮を実施することを決定しました。資源を守るうえで、できるだけ早くから漁獲を控える取り組みを行うことは重要ですが、初めてその事態に直面した北浦では、速やかに取り組みを始めることができたのではないかと思います。

3 資源回復計画実施後のワカサギ資源の状況

では、資源回復計画に取り組んでからの資源水準はどうだったのでしょうか。以下では、資源回復計画が実施された9月以降のCPUEの変化に注目してみます。

まず、取り組みを始めた9月のCPUEは5.1Kgで、取り組みを始める前の8月下旬におけるCPUE(4.9Kg)とほとんど変わりませんでした(図1)。しかしその後はワカサギの成長もあって、11月には7.4Kgまで増加し、トロール漁の禁漁直前の12月上旬にも7.1Kgが維持されました。ちなみにこの間のワカサギは、体長では平均約7cm(9月)から約10cm(12月)まで大きくなり、体重では3gから10gまで重くなっています。

さて、12月時点の7.1Kgという水準は、過去のデータと比べると、産卵親魚が残った年の水準に含まれる値です(図1の右図)。実際、2月の人工採卵事業における張網への入網状況は昨年(平成20年2月)の地区当たり6.4Kg並みの5.8Kgに達しており、翌年の漁へ向けて資源をつなぐことができたと思われます。資源回復計画は、当初の危険な状態から翌年の資源につながる親魚が残った状態にすることに貢献したと評価したいと思います。

ただ、近年のワカサギ資源は、産卵親魚の量(産卵量)だけでなく、ふ化仔魚のエサとなるワムシなど小型動物プランクトンの発生量に左右されると考えられています。産卵親魚を何とか確保することができた今、動物プランクトンの十分な発生に期待したいところです。

4 今後の研究で明らかにしたいこと

近年の北浦では、上流域ではワカサギの数は多いが魚体は小さく、下流域では数は少ないが魚体は大きいという現象がよくみられます。考えられる理由には、産卵場の規模の違い、産卵量の違い、仔稚魚の生き残りを左右するエサの量の違い、それらにともなう成長の違いなど、いろいろなことが考えられます。

平成21年は、体長が15mmよりも小さい仔魚やそのエサの量、そして仔魚の成長履歴などを調べて、上記現象の理由の解明や、可能であるならば解決策の検討に向けた研究を進めたいと思います。

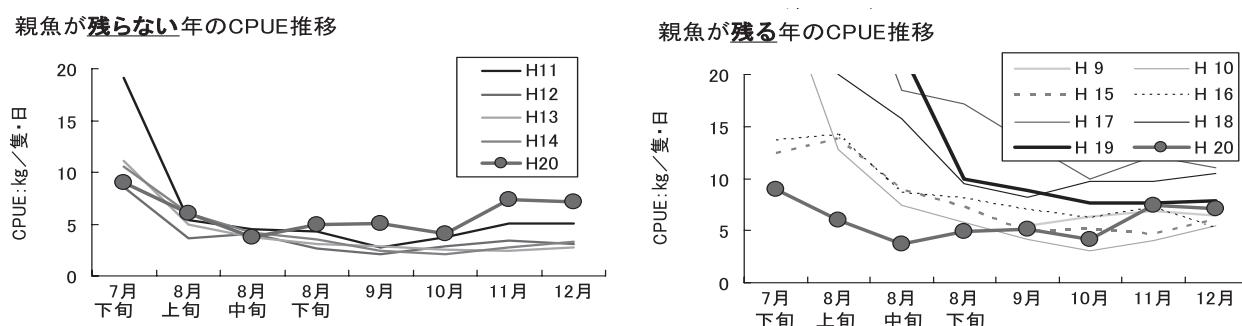


図1. 北浦における漁模様(CPUE)の推移。左図は産卵親魚が残らなかった年の、右図は産卵親魚が残った年を示している。●は平成20年のCPUE推移を示しており、左と右、両方の図に同じように記している。左図をみると、平成20年の11月と12月のCPUEは、過去4年みられた親魚が残らない年のCPUEよりも多いことがわかり、右図をみると、親魚が残る年のCPUEの値に含まれることがわかる。

受賞おめでとうございます！

茨城県水産製品品評会

茨城県水産製品品評会が平成20年11月28日、県民文化センター分館にて開催されました（茨城県水産物開発普及協会主催、茨城県後援）。

水産加工業の発展と水産製品の品質向上を図るため、毎年行われているもので、今年度の出品数は霞ヶ浦北浦地区238点、沿海地区140点テーマ賞36点（うち霞北11点）でした。

今年の特徴として、シラウ才の好漁を反映して、シラウ才の煮干、佃煮の出品が多くみられました。

多くの出品の中から、霞ヶ浦北浦部門の農林水産大臣賞は、橋本美夫氏（橋本金兵衛商店）の「しらうお佃煮」が受賞しました。

→審査のようす



店の「佃煮詰合せ」が受賞となりました。他の霞ヶ浦北浦関係の各賞の受賞者は表のとおりです。

表彰式は、平成21年1月28日、水戸市の水戸京成ホテルにおいて行われ、賞状と記念品が授与されました。

平成20年度 茨城県水産製品品評会受賞者名簿 霞ヶ浦北浦部門

(敬称略)

区分	品名	氏名	住所	支部名
農林水産大臣賞	しらうお佃煮	橋本金兵衛商店 橋本 美夫	美穂村木原590	霞ヶ浦湖南
水産庁長官賞	若さぎ甘露煮	桜屋本店 桜井 均	小美玉市下玉里1357	霞ヶ浦
	はぜ佃煮	中村水産加工店 中村 義夫	かすみがうら市牛渡1751-1	かすみがうら市
県知事賞	小女子佃煮	ソカラ食品株式会社 斎藤 敏孝	かすみがうら市柏崎843	かすみがうら市
	若サギ甘露煮	株式会社平野 豪	行方市麻生278	霞ヶ浦
	ふな甘露煮	平山商店 平山 誠	鹿嶋市武井165-2	北浦
県議会議長賞	はぜ佃煮	伊藤商店 伊藤 義男	稻敷市浮島4843-1	霞ヶ浦湖南
大日本水産会長賞	中海老甘煮	箕輪名産店 箕輪 博之	土浦市大和町7-22	土浦
全水加工連会長賞	若さぎ甘露煮	豊嶋商店 豊嶋 勝朗	かすみがうら市牛渡1915	かすみがうら市
県農林水産部長賞	えび佃煮	片波見商店 片波見 建造	鹿嶋市谷原842-2	霞ヶ浦
	海老佃煮	安部水産 安部 秀男	かすみがうら市牛渡2716-13	かすみがうら市
	鯉うま煮	(有)富田商店 富田 晴夫	美浦村馬掛496	霞ヶ浦湖南
	あみ佃煮	コモリ食品 小森 喜幸	鉢田市中居330	北浦
県加工連会長賞	白魚佃煮	万屋商店 菅谷 辰男	行方市於下1013	霞ヶ浦
	白魚煮干	澤辺水産 澤辺 光子	土浦市沖宿町561	かすみがうら市
	ほたてうま煮	(有)やまと水産 常磐 美代子	土浦市沖宿町742-2	かすみがうら市
	わかさぎ飴焼き佃煮	(有)海老沢商店 海老澤 正之	行方市宇崎307	北浦
県農林水産振興協議会長賞	はぜ佃煮	篠塚敏雄商店 篠塚 敏雄	鹿嶋市大船津2575-1	霞ヶ浦
霞ヶ浦北浦水産振興協議会長賞	しじみ佃煮	加藤商店 加藤 治雄	潮来市牛堀26	霞ヶ浦
	白魚くるみ	(有)やましち 貝塚 福寿	かすみがうら市坂726	かすみがうら市
	公魚甘露煮	(有)田中屋川魚店 田中 栄一	土浦市川口1-5-9	土浦
	えび佃煮	高須水産 高須 耕一	稻敷市浮島4990-4	霞ヶ浦湖南
県水産物開発普及協会長賞	しら魚煮干	辺田商店 辺田 清孝	行方市白浜288	北浦
	ほたてうま煮	(有)はしもと 橋本 龍夫	行方市富田76-1	霞ヶ浦
	霞ヶ浦産生炊	(有)島田商店 島田 栄一	かすみがうら市牛渡2623-1	かすみがうら市
	しらうお佃煮			

テーマ賞部門（霞ヶ浦北浦分を抜粋） テーマ「土産品」

テーマ賞部門	佃煮詰合せ	(有)田中屋川魚店 田中 栄一	土浦市川口1-5-9	土浦
--------	-------	-----------------	------------	----

いばらきの地魚取扱店認証制度

この制度は、いばらきの地魚取扱店認証委員会(沿海地区漁連内)において、いばらきの地魚を扱っている店を一定の基準により認証するもので、平成18年度にスタートし、3年目に入りました。

霞ヶ浦北浦地区の地魚取扱店は計23店となっています。

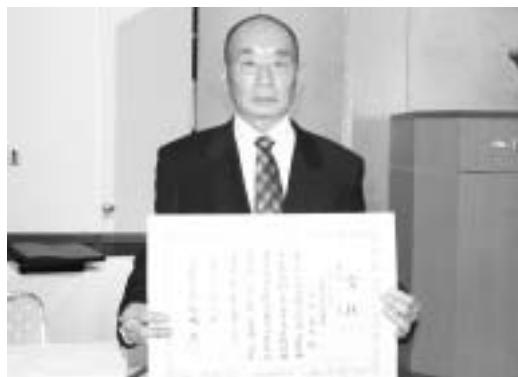
今後も地魚取扱店を増やし、地元の人に地元産の魚の美味しさを味わっていただきたいと思います。

ホームページはこちら

<http://www.jf.net.ne.jp/iggyoren>



ロゴマーク



↑農林水産大臣賞受賞の橋本美夫氏



↑テーマ賞受賞の「佃煮詰合せ」

霞ヶ浦北浦産水産物の試食・求評会の開催について

当協議会の今年度の新事業として、栄養士の方向けの試食・求評会を開催しました(霞ヶ浦地区：3月10日、北浦地区：3月18日)。これは、学校給食や福祉施設等の献立を立てている栄養士の方に、霞ヶ浦北浦産水産物を使ったメニューを紹介して給食等に取り入れてもらい、地元での消費拡大を目指そうというものです。今回のメニューは、ワカサギ、シラウオ、テナガエビ、アメリカナマズを使いました。

栄養士の方からは、「地元産であり、安全安心で美味しい健康に良い魚介類を献立に取り入れていくことを前向きに検討したい」という感想が寄せられましたが、価格や入手ルートの等の課題があり、これらの課題解決と関係機関の皆さんの協力により、今後の地元での消費拡大が進むよう期待されます。



会員より

知事表敬訪問

霞ヶ浦漁業連合会、きたうら広域漁協、霞北水産加工組合

平成20年8月1日、霞ヶ浦漁連、きたうら広域漁協、霞北加工協の代表者による知事表敬訪問を行いました。新聞にも掲載されたのでご覧になった方も多いと思います。

これは、ワカサギ解禁後の時期に合わせ、霞ヶ浦北浦産わかさぎ等をPRするために訪問したもので、PR品目として、獲れたてのワカサギ、シラウオのほか、煮干詰合せ、佃煮詰合せを持参して、知事を囲んでの試食と意見交換をしました。

橋本知事からは、「霞ヶ浦北浦統一ブランドとしてPRし、地元の飲食店などへ売り込んでは?」、「PRを積極的に行うことや、地産地消はとても大切なことで、これからも頑張って下さい。」とのコメントを頂きました。

知事のほか県の関係部局へもワカサギをはじめとした霞ヶ浦北浦産水産物のPRをしました。



霞ヶ浦魚祭りin美浦

霞ヶ浦漁業協同組合連合会

昨年10月4日（土）、霞ヶ浦で初となる「霞ヶ浦魚祭りin美浦」を美浦村中央公民館にて開催しました。この魚祭りは、霞ヶ浦産水産物の試食や加工品及び地元産品の展示即売、魚のふれあい体験、環境保全活動の展示発表等のイベント開催を通して、安全安心で美味しい魚介類と環境保全の大切さをPRすることを目的としたものです。このような大きなイベントの開催は初めてということもあり、準備に追われることもありましたが、関係する皆様の協力と団結のもと、来場者5,000人ともなる大成功をおさめることができました。今後参加するイベント等でも、霞ヶ浦の漁業をより効果的にPRできるよう活かしていきたいと思います。



帆びき網漁業における許可の取扱いについて (トロールとの重複許可の承認)

水産事務所漁業調整課

かつて霞ヶ浦を代表する漁業であった帆びき網漁業は、現在では観光用として12隻（霞9・北3）を残すのみとなっており、このうち霞ヶ浦地区の9隻は地元市もしくは漁協が所有しています。帆びき網漁業の許可取り扱い方針の中ではトロール漁業との重複を認めない規定があり、地元市等から帆びき網操業者を確保するよう要請があった場合には、トロール漁業者の中からトロールを廃業して帆びき網漁業許可を取得せざるを得ないことから、運用改善を求める声が市や漁協からありました。そこで、帆びき網漁業による漁獲圧力は現在ほとんど無い状況であり、かつ「霞ヶ浦北浦漁業のPR」や「漁業文化の伝承」につながるものであることを考慮し、市又は漁業団体が所有する船舶を使用して帆びき網漁業の許可を取得しようとする場合に限ってトロールを廃業することなく帆びき網漁業の許可を取得することとしました。

お知らせ

平成21年度の知事許可漁業の一斉更新予定

今年度はさし網漁業及びつけ漁業において、一斉更新が予定されています（下記の表を参照）。一斉更新にあたっては許可有効期間満了日の約1ヶ月前には各漁協へ更新手続きの案内をいたしますので、更新を希望される方は所属漁協からのお知らせに留意してください。

【平成21年度の知事許可漁業の一斉更新予定】

許可有効期間満了	漁業の名称	漁業種類
平成21年8月31日	さし網漁業	しらうおさし網漁業
平成21年12月31日	さし網漁業	雑魚さし網漁業
平成22年3月24日	つけ漁業	おだ漁業、笹浸漁業、その他のつけ漁業

ご意見・投稿募集！

当協議会は発足して50年が経ち、51年目に入る節目の年を迎えました。過去の歴史ある活動実績を活かしながら、今後も新たな取り組みを進めていきたいと思います。会員の皆さんのご協力のほど、よろしくお願ひ致します。

編集後記

URL <http://www.kasumikitaisinkou.jp/>
協議会事務局
電 話 029-822-1725
FAX 029-824-1733
（霞ヶ浦北浦水産事務所内）
土浦市真鍋5丁目17番26号
霞ヶ浦北浦水産振興

お知らせ

平成21年度の漁船検認について

平成21年度の漁船検認は、平成16年度に検認、新規登録、機関換装等を行ったものが対象になります。対象船は約380隻です。

検認にあたって、漁船所有者にご注意いただくことは以下の通りです。

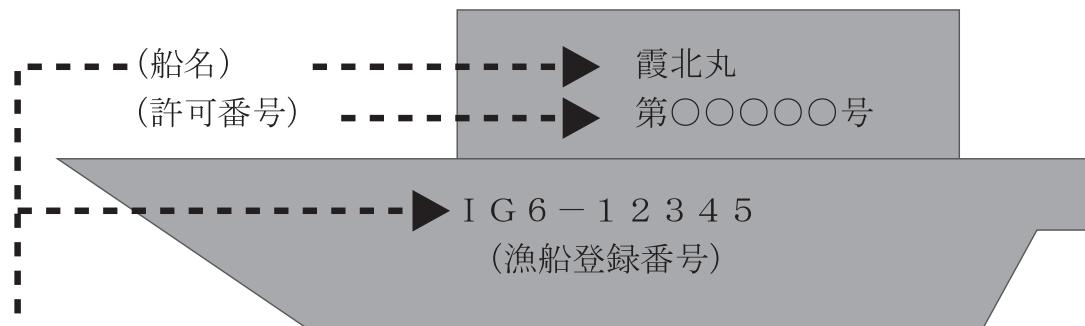
- ①検認対象漁船の一覧を水産事務所から事前に関係する漁協へお送りしますので確認をお願いします。
- ②漁船登録番号及び船名を船体両舷にはっきり表示して下さい（番号の表示されていない船は検認できません）。
- ③検認時にはエンジンも確認します（エンジンの確認できない場合も検認できません）。
- ④検認あるいは漁船登録について疑問・ご質問がありましたら、各漁協を通じて、事前におたずね下さい。

漁船登録番号、船名、許可番号表示の徹底について

漁船登録番号、船名、漁業許可番号は必ず以下のように表示して下さい。

今後これを守らないと、漁船の登録、漁業の許可を取り消されることもありますので注意して下さい。

＜表示例＞



- | | | |
|----------|---|--------|
| 1 文字の大きさ | 漁船登録番号 | 7cm以上 |
| | 船 名 | 10cm以上 |
| | 漁業許可番号 | 8cm以上 |
| 2 表示の場所 | <u>漁船の両側の見やすい場所に表示すること。</u> | |
| 3 船体標識 | <u>わかさぎ・しらうおひき網漁業については、漁協別の表示をすること。</u> | |